

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

June 2020 vol.74

June						
S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

◆ 坂田神社

所在地：西尾市一色町坂田

交通：名鉄西尾線「吉良吉田」駅 西約 6km

『昭和 28 年 13 号台風』は、昭和 28 年 9 月 25 日に日本列島を襲った台風で、午後 5 時過ぎに志摩半島を横切り、伊勢湾を経て、午後 6 時半過ぎに知多半島に上陸しました。被害を大きくしたのは高潮で、25 日の夕方には大潮の満潮と台風が重なったため、暴風による波浪とともに海岸堤防を破壊し大きな災害となりました。愛知県では、139km にわたって海岸堤防が被災し、そのうち 13km は完全に流失して、耕地 6,000 町歩（約 6,000ha）が海中に没し、死者 72 名・行方不明者 3 名、負傷者 1,663 名、家屋の全壊 1,477 戸、床上浸水 31,801 戸にのぼり、被害総額 675 億円（当時）に達する大被害となりました。

この 13 号台風により、当時の一色町でも堤防が 51 箇所決壊、全町の 80% が浸水し、16 名の尊い命が失われましたが、これは、2018 年の西日本豪雨で、ほぼ同じ人口規模、浸水エリアが 27% だった岡山県真備町において、50 名余りの方が亡くなっているのと比べると少ない数字です。堤防の決壊時刻や浸水深さ、地域の高齢化率など、条件の違いはありますが、13 号台風で、一色町で亡くなった方が少なかった理由のひとつに、地域での声かけや、過去の災害の教訓を生かした行動があったようです。ケーブルテレビ『KATCH』のホームページ「まちが浸かった日 1953 年 9 月 25 日 13 号台風を知っていますか？」（<https://www.katch.co.jp/kinjo/prevention/prevention21.html>）では、経験者の証言が紹介されています。

「1889 年（明治 22 年）の水害経験者が集落に数人いて、彼らは 13 号台風で堤防が決壊しそだと気づいていた。だから、2 日前から女性と子どもを避難させ、集落に残った若い男手は彼らの指示に従って動いた。」明治 22 年の水害で、一色町では 170 名余りの方が犠牲になっていますが、この水害を経験した方が、数日来高くなっていた潮位から堤防の決壊を感知し指示を出して、避難などの行動を促したとのこと。また、海の様子が見えずと気づいた人々が、昼過ぎから家族を親戚宅などに避難させていたケースもあり、信頼できる身近な人からの呼びかけが避難行動につながっています。

さらに、こんな証言も紹介されています。「明治の水害のときも蔵の中で難を逃れたと、大叔母さんが言っていた。だから 13 号台風で水が来た時も、家族みんなで蔵に入った。」「水害のときは、（高い所にある）〇〇さんの家に逃げさせてもらえと、海岸沿いの地域では昔から言われていた。」「明治の水害の経験から、本家が一段高く家を建てていた。だからすぐにそこに家族で逃げた。」過去の災害の経験を生かし、あらかじめ避難行動を決めていた事例です。

一色町には、明治 22 年の水害、昭和 28 年 13 号台風にまつわる記念碑が数多く残されています。坂田神社にある十三号台風水害記念碑はそのひとつです。過去の災害の経験や教訓の言い伝えとともに、それを人々の心に刻み続けるべく、記念碑として災害の記録が残されています。



十三号台風水害記念碑（左）
(<https://jinja.dr-leather.com/aiichi-nisio-24/> より)



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆坂田神社の周辺には…

● 宝珠院 (海嘯記念碑、三界萬霊碑)

所在地：西尾市吉良町吉田石池

交通：名鉄蒲郡線「吉良吉田」駅 南東 約 1.5km

宝珠院の門前には、明治 22 (1889) 年の高潮の惨状を伝える海嘯記念碑と、その死者を弔う三界萬霊碑があります。海嘯記念碑には、高いところで約 4.6m の海水が来たこと、家や舟等が流された



こと、潮が引いている間に死体を片付けたこと、堤防がほとんど流されたことなどが刻まれています。

● 正法寺 (津なみの標、高潮標)

所在地：西尾市吉良町乙川

交通：名鉄蒲郡線「吉良吉田」駅 南東 約 1.5km

門前に、明治 22 年の高潮被害の水面を記した「津なみの標」、昭和 28 (1953) 年 13 号台風の高潮被害の水面を記した「高潮標」が建てられています。「津なみの標」が約 20cm 高くなっています。



● 大島八幡社

所在地：西尾市吉良町大島 交通：名鉄蒲郡線「吉良吉田」駅 西 約 2.5km

嘉永 7 (1854) 年の安政東海・南海地震で八幡社社殿や浄泉院の庫裏、村の家屋 54 軒などが倒壊して大津波が押し寄せたこと、藩主から見舞金が下されたことが棟札に記されています。



◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をご覧ください。

★ 仁吉まつり

吉良の仁吉は、恩を受けた清水次郎長に報いるため、「荒神山の大喧嘩」に挑み命を落とした、義理と人情に生きた侠客の男です。仁吉まつりは、仁吉を偲んで毎年 6 月の第 1 日曜日に開催されるお祭りで、会場は、清水次郎長が建立したと伝えられる仁吉の墓がある源徳寺と福泉寺です。



仁吉まつり HP より

当日は、仁吉の墓前祭に始まり、だんご・ジュース・うどん等の供物接待、飲食店や物販店が出店する楽市楽座、地元の学校の生徒の演奏など、様々なイベントが行われ、1 日を通して賑わいます。(2020 年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

あいちの農産物

たまねぎはねぎ科の二年草で、一年目にできる球形の鱗茎(葉の下の葉鞘と呼ばれる部分が太ったもの)を食用にします。



愛知県園芸農産課 HP より

県内の主な産地は西尾市、碧南市、豊橋市、知多半島などで、4 月から 7 月に出荷されます。愛知県産は収穫したあと天日で干してすぐ出荷される新たまねぎが中心で、素材の持ち味を生かした生食に適しています。

● ブレイクタイム ●

♪ 一色産うなぎ

うなぎの養殖は明治 12 年に東京の深川で始まったと言われ、一色町では明治 27 年に導入され、昭和 34 年の伊勢湾台風をきっかけに、被害対策や稲作からの転換などにより急速に発展しました。

限りなく天然に近い状況で養殖を行い、手間をかけた「一色産うなぎ」は、大きすぎず、小さすぎず、身に良質な脂ののったうなぎです。県生産量の 80% 余り、全国生産量でも約 20% を占める一大ブランドとなっており、「西尾の抹茶」とともに、特許庁認定の地域ブランドに認定されています。



西尾市観光協会 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2020 年 6 月)

